

# 街を行く

第88回 赤羽 Akabane

## “ミスマッチ”がよく似合う？

かつては関東でも有数の繁華街という顔もあった赤羽。今の印象は“人情味あふれる下町”であり、演歌の似合う居酒屋でオヤジたちが昼間から一杯引っ掛けている風景が想像されます。そこでの飲み方はおそらく、酔って氣勢を上げるというより、しみりとしたお酒なのでしょうね。では実際はどのようなか行ってみると案の定、居酒屋は昼間から沢山の人で賑わっていました。皆さん、「センベロ」という言葉をご存知ですか？ これは、「たった千円でベロベロに酔える（懐に優しい居酒屋）」という意味で、この街から生まれた言葉の様です（確かではありませんが）。しかし、最近新しいコンセプトの店が軒を連ね、女性客も含め若者が安心して気軽に集まれる人気の高いスポットとして注目されています。何事も世代交代が進んでいますが、ソフトランディングの変革が重要なのです。街にも賞味期限がありますから、今まで上手くやれてきたからといって伝統だけを引きずっては生き残っていきません。とはいえ一気に変わろうとすると無理が生じます。赤羽のように、これまで慣れ親しんできた人たちはそのままに、新しく来る者も拒まない鷹揚さが必要なのですね。当然、立地を考ても東京のビジネス街からは30分圏内に位置するのですから、これからも多くのビジネスマンが移り住んでくるでしょう。新しい住民を迎える街としての顔を用意しなくてはなりません。すでに多くのマンションが立ち並び、大手デベロッパーの大型プロジェクトも計画されています。販売価格を聞くと武蔵野



真っ屋根から賑わうセンベロ居酒屋の通りを抜けると、素敵な教会がみえてくる。



の人気住宅地とほぼ同じ価格、いやそれを上回っているかもしれません。西高東低は昔の話となり、今や東高西低が定着してきました。以前から話してきましたが、首都圏の住宅地の中心も新宿や渋谷ではなく東京駅周辺に代わってきたのです。皇居を城としてそれを中心に街が栄えたかつての様な街づくりに戻っているのかもしれませんが。この街にもその片鱗を発見しました。赤羽駅すぐそばの、歴史を感じるおしゃれな教会（カトリック赤羽教会）です。住人の皆さんにはお叱りを受けるかもしれませんが、この“ミスマッチ”がなんとも洒落です。本来はこのような建物がマッチする街だったのでしょね。このミスマッチの発見が街歩き醍醐味。歴史を見ると、その街が以前はどのようなところだったのかが良くわかり

ます。この街はこれからもドンドン変わっていきます。それは皆さんの想像を超えるスピードです。街は生き物ですから、一度変わり始めると誰にも止めることは出来ません。しかしその方向を正しく導いていくのが私たちの役目です。正しく育てていきましょう。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。